

令和7年度 静岡市協働パイロット事業
静岡グリーンラボ
～みどりを活かす人材の活躍の仕組みづくり～
事業報告書

一般社団法人グリーンパークあさはた

目 次

1.事業の背景と目的

2.事業の概要

3.プログラム①静岡グリーンラボ研修

4.プログラム②対話の場

5.プログラム③事業成果報告会

6.事業の成果

1.事業の背景と目的

1-1 事業の背景

当事業は令和6年度に実施した協働パイロット事業「こもればいカフェ in あさはた緑地(仮称)」の2年目の継続事業として実施しました。そのため、事業の目的としては昨年度に引き続き、「みどりを活かしたまちづくりを担うコーディネーターを育成し活躍してもらう仕組みづくり」であり、協働事業の成果としてはその仕組みが静岡市の事業として構築されることを目指しました。

1年目の事業では、すでにまちづくりのコーディネーターとして活躍されている方々からコーディネーターに求められる資質などを言語化していただいたり、「こもればいコモンズカフェ」というみどりをテーマにした対話の時間を通して、みどりや公園を活用したい人たちの声を集め、コーディネーター育成の研修案を作成しました。その成果を受けて2年目は研修案をベースに、コーディネーター候補の方々に参加を呼びかけて実際に全3回の研修を受けていただき、今後の制度化に向けての課題や論点を整理していただきました。

1-2 緑地政策課の課題テーマ（※令和6年度募集時）

テーマ	みどり(公園・緑地)を活かしたまちづくり人材の育成支援事業
現状	本市では、みどり(公園・緑地)を地域の価値を高める重要な資産として捉え、新たな価値の創出や社会課題解決に取り組む活動を市民協働により進めていきたいと考えています。 一方、令和3年度緑の基本計画改定基礎調査では、みどりのまちづくり活動に「参加している」「今後参加してみたい」人の割合は回答者の約3割と低い状態にあります。
目指す姿	みどりに関する知識・技術・熱意がある人材(以下、「みどりの専門人材」という。)やその活動の場が増えることで、みどりの多様な機能を活かしたまちづくり活動の実現やみどりの専門人材のネットワーク化が進み、社会課題解決の場としてみどりがその役割を発揮している姿を目指しています。
解決すべき課題	市民のやりたいという思いに寄り添い、活動の立ち上げや持続可能な運営を支援できる伴走者(以下、「みどりのコーディネーター」という。)の存在が求められます。みどりのコーディネーターの持つノウハウをみどりの専門人材となりうる市民が学ぶことができる機会の創出が求められます。

1-3 1年目終了時の「人材育成研修案」における要旨と目的

提案要旨

静岡グリーンラボ（仮称）

- ・全3回の「みどりのまちづくり」に関する座学、実践を含む連続講座を開催し、認定コーディネーターを育成。
- ・認定後は市民と行政の間を取り持つファシリテーターとして、市民によるみどり活用のアドバイザー、行政のみどりの関連施策を後押しする専門家人材としての役割を担う。
- ・認定コーディネーター間の意見交換、情報交換も推進することで、経験知が蓄積、共有され、それにより静岡市のみどりが市民によって活発に創出、活用されることを目指す。

令和6年度「人材育成研修案 P2【提案要旨】」

人材育成の目的

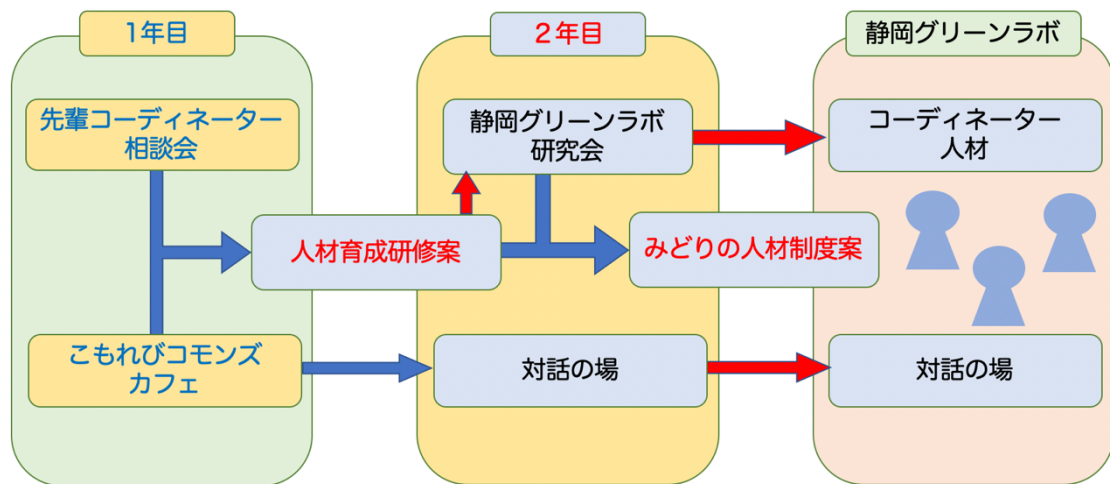
市民と行政の間に専門性が担保されたコーディネーター集団が形成され、その活躍により市民によるみどり活用の底上げ、行政と市民の連携の潤滑油、公園・緑地の効果的な活用が促される。



令和6年度「人材育成研修案 P6【人材育成の目的】」

2.事業の概要

2年間の全体構成としては以下の図で概略を示す通り、みどりのコーディネーター人材の育成研修の開発を軸としつつ、育成人材の活躍の場の設計と、現場の声に接する対話の場を継続的に設けていく形をとりました。



2年目の事業は1年目に作成した研修案を改めて練りつつ、試行してみることを中心として、「みどりを活かしたまちづくり」が定着していくための対話の場や事業成果報告会を実施しました。

- ①静岡グリーンラボ(連続 3 回の研究会)
- ②対話の場(こもれば commons カフェ)の開催
- ③みどりの人材制度案策定
- ④事業報告会

2-1 研修案のブラッシュアップ

1年目に研修案を作成するにあたって、特に気をつけたポイントが「コーディネーターとは何か」であり、その比較対象としての「プレイヤー」との違いを意識する中で、その役割やスタンス、必要とされる資質などを検討しました。

1年目のプログラム「先輩コーディネーター相談会」では、実践経験があること、コーディネーションされる側である「プレイヤー」の気持ちがわかること、が重要なポイントとして浮かび上がりました。

その他、「みどりを活かした」という部分を担保するために、この事業における「みどり」が指す公園をはじめとした自然に触れる公的空間に関しての基礎的な知識や、実際にコーディネーターとして誰かの相談を受けることを想定した模擬的な体験の必要性であり、研

修の時期と場所、講師と内容について改めてアドバイザーの山本由加氏と緑地政策課の担当者山崎氏、曾根氏と共に協議を重ね、構成を再編成しました。



コーディネーターについて

自分で何かやりたい、という人は自分の舞台にしてしまいがちなので向かない。

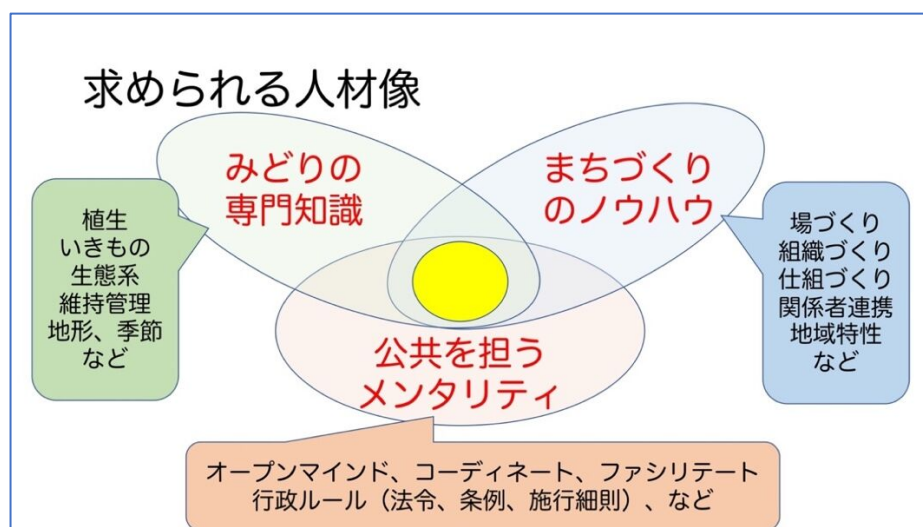
相談され、それを一定の解決に導ける人柄と素養が大事。

相談員をすると課題が俯瞰的に見えるので受ける側にとっても良い学びになる。

自身もプロジェクトを回している、あるいは実施したことがある実践経験が必要。

相談者側の気持ちがある程度汲める。

令和6年度報告書 P12「先輩コーディネーター相談会【コーディネーターについて】」より



令和6年度「人材育成研修案 P7【求められる人物像】」

上記のコーディネーターの要素を再確認し、「プレーヤー」ではない「コーディネーター」という点を研修全体の中でも強く打ち出すために、1年目の案では3回目に予定していたコーディネーター研修を初回に持ってくることにし、その後2回目に知識として必要な要素をインプットし、3回目にはそれらをどのように活かしていくのか、実践的に相談に対応する想定でディスカッションをする、という流れに構成を修正しました。

インプットよりもその後のアウトプットをより意識した内容へ改善されたことと、3回の研修のうち2回をカフェで実施することで、この研修自体も会場設定からコーディネーションの視点を取り入れたものとなりました。

1年目に策定した研修構成案

プログラム概要

1回目 基礎講座@あさはた緑地 ・7月中旬 10時集合～昼休憩挟み～15時半
座学・ケーススタディ・意見交換
【内容】「みどり」とは / 静岡のみどりの基本計画改定のポイント / 知っておきたい条例 / 許可申請手続き / 樹木、草花、昆虫、動物などについての基礎知識 / 公園によくある問い合わせ / さまざまな活用事例

2回目 実地研修@船越堤公園 ・8月上旬 10時集合～昼休憩挟み～15時半
座学・ワークショップ・こもれび commons カフェ実践講座
【内容】公共スペースの活かし方、グリーンインフラとは、設備の活かし方、人の活かし方、自然環境の活かし方 / こもれび commons カフェ実践講座 →宿題の提示

3回目 コーディネーター研修@あさはた緑地 ・9月中旬 10時集合～昼休憩挟み～15時半
ワークショップ・意見交換
【内容】中間支援的な視点 / コーディネーターとしての素養 / 地域課題や課題解決に関する基礎知識 / さまざまな課題解決事例 / 宿題の発表と、それを受けての意見交換

2年目に再構成し、実施した研修内容

グリーンラボ概要

1回目 コーディネーター研修@Café OEC ・9月4日 13時集合～16時
座学・意見交換
【内容】コーディネーターとは / コーディネーターとしての心得・振る舞い・スタンス / 行政と市民との間の潤滑油としてのコーディネーター、など

2回目 みどりの基礎研修@あさはた緑地 ・9月10日 10時集合～昼休憩挟み～15時半
座学・ワークショップ
【内容】「みどり」とは / みどりの基本計画 / 法律・条例 / 行政手続き / 公園によくある問い合わせ / さまざまな活用事例 / みどりの価値 / 生物多様性 / みどりの多機能性 / コミュニティづくり、など

3回目 実践研修@しずおかのひみつ ・9月17日 10時集合～昼休憩挟み～15時半
振り返り・ケーススタディ・意見交換
【内容】前回、前々回の振り返り / 2件のケーススタディ / 制度設計に向けた意見交換、など

2-2 実施体制

受託団体である一般社団法人グリーンパークあさはたが静岡市役所緑地政策課と日常的に連携、意見交換しつつ、前年に続いて山本由加氏にアドバイザーとして加わっていただき、事業を進めました。また講師役には前年から続いて木村智子氏、本年から鈴木まり子氏に加わっていただきました。

【アドバイザー】

山本由加氏

- ・「立体交差」主宰
- ・ホールアース自然学校特任研究員



選任理由

長年林業や環境教育の現場に携わってこられた経験、知見を活かし、1年目の事業構想時からアドバイザー本事業に携わってくださっており、継続してをお願いしました。本年は3回の研修構築においてプログラム構成、講師、場所の選定から一緒に検討いただき、また研修当日は各回の進行に加えて3回目は講師役も兼ねていただき、事業の中心的な存在としてご活躍いただきました。

【ゲスト講師】

鈴木まり子氏

- ・日本ファシリテーション協会フェロー
- ・はままつ na net 事務局長



選任理由

ソーシャルファシリテーションの専門家で、防災分野の人材育成にも携わられており、特に災害支援の現場での経験が豊富。そのため、本研修ではプレーヤーのためのコーディネーターとしての役割やスタンスについて、実践経験をもとにして受講者にも体感いただくプログラムを実施いただく講師として適任と考え、お招きしました。

木村智子氏

- ・スマイルプラス代表



選任理由

所沢と浜松を拠点としてみどりと人との関わり方のデザインや、人材の育成に携わられてこられたご経験から、本事業では1年目から講師役を依頼。2年目はコーディネーターの視点として、みどりの中間支援者の役割や、生物多様性の観点からのみどりの価値など多様な切り口でのインプット、事例提供をいただきたく講座を依頼しました。

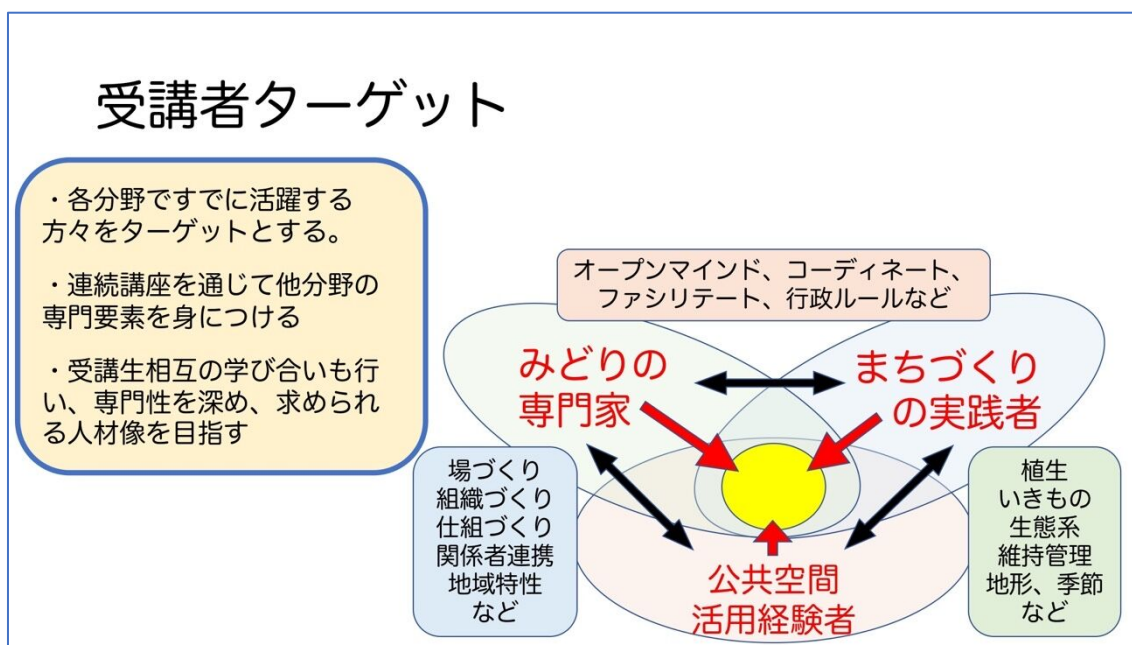
2-3 実施スケジュール

日付	イベント	打ち合わせ
6/30		@オンライン ZOOM 役割分担、方針確認
7/24		@市役所 研修構成、講師、会場の検討
8/9		@オンライン ZOOM 初回講師打ち合わせ
8/25		@オンライン ZOOM 第2回講師打ち合わせ
9/4	静岡グリーンラボ第1回 @Cafe OEC	
9/10	静岡グリーンラボ第2回 @あさはた緑地	修了後、第3回構成打ち合わせ
9/17	静岡グリーンラボ第3回 @しずおかのひみつ	
9/25		@市役所 研修振り返り、制度化検討
1/6		@市役所 制度化検討、報告会について
2/3	竜南雨坪公園ルールづくり会議 @竜南小学校	1/21 @竜南小学校 1/26 @市役所
2/7	対話の会① @あさはた緑地	
2/28	対話の会② @あさはた緑地	
3/16	パイロット事業合同成果報告会 @コクリエーションスペース	

2-4 モニター研修生

当事業で構築する研修はいわゆる教養講座ではなく、あくまで実践的な人材育成を目的としているため、2本柱である「みどり」や「まちづくり」に関心のある方ではなく、すでにどちらかの分野で実績を積んできた方を受講対象者として設定し人選しました。

そのため、研修はみどりの実践者にまちづくりの視点、知識を、まちづくりの実践者にみどりの視点、知識を身につけていただくという位置付けとなり、それぞれが受講生ともなり、一方で専門性のある分野では教える側にもなるという相互補完的な研修をイメージしました。



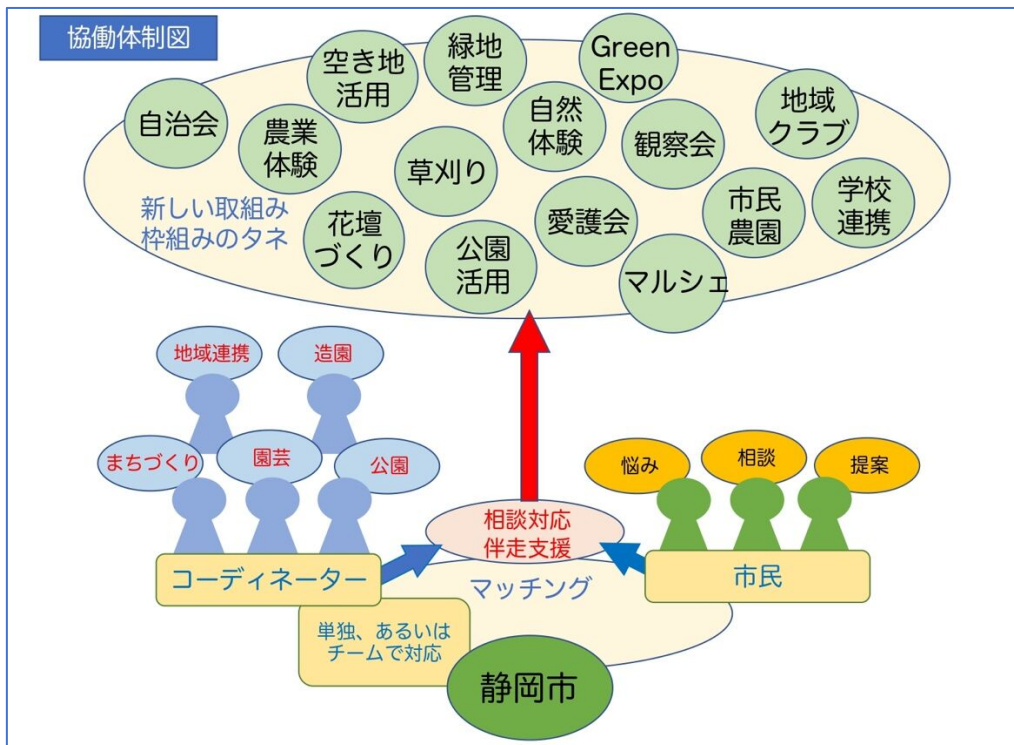
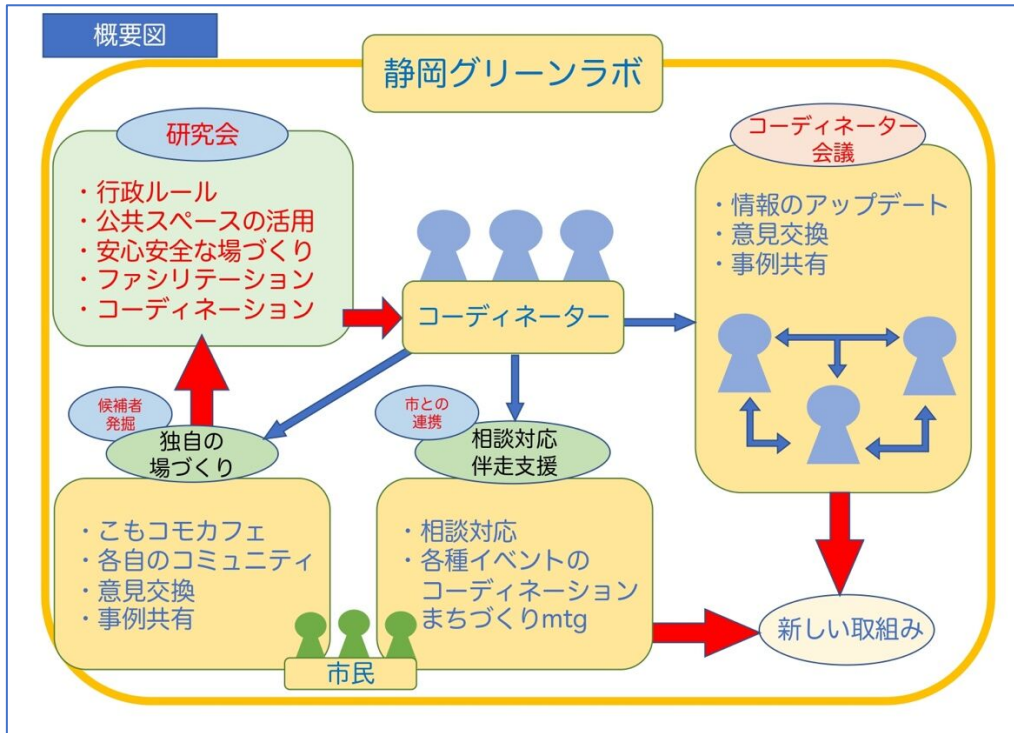
令和6年度「人材育成研修案 P2【提案要旨】」

静岡グリーンラボ研修モニターメンバー一覧

氏名	所属	専門性	その他
井上 泉 さん	シズオカオーケストラ	まちづくり	しずおかのひみつ
大石 朗紀 さん	次郎長通り商店会	まちづくり	Café OEC
中村 将史 さん	花のある暮らし研究所	みどり	地域の夏祭り
平川 嘉乃 さん	竜南小地域学校協働活動推進員	まちづくり	校内菜園
藤浪 義之 さん	株式会社藤浪造園	みどり	ビオトープ
柚木 康裕 さん	船越堤公園そらのクジラ	みどり	アート

2-5 研修修了者の活躍

研修構築にあたっては当初から受講後の活躍がイメージできることを重視していたため、モニター参加者各位には以下の図により、修了後も静岡市との協働の元で市内の様々な相談への対応やみどりのまちづくりへ関与していくことを念頭においていただきました。



3.プログラム①-1 静岡グリーンラボ 第1回

目的：みどりを活かした取り組みを市民、市役所と共に推進していくためのコーディネーター人材育成を制度化するためのパイロット研修。初回に「コーディネーター」の意味するところの目線を合わせ、その役割、スタンスなどを身につける。

日時：9月4日(木) 13:00~16:00

場所：Café OEC（静岡市清水区松井町 12-1）

出席者：主催者 静岡市緑地政策課 曾根氏・山崎氏

受託者 (一社)グリーンパークあさはた 木下・太田・村松

アドバイザー 山本由加氏

ゲスト講師 鈴木まり子氏

モニター参加者 大石朗紀さん（次郎長通り商店会）

井上 泉さん（シズオカオーケストラ）

柚木康裕さん（船越堤公園そらのクジラ）

平川嘉乃さん（竜南小協働活動推進員）

藤浪義之さん（藤浪造園株式会社）

欠席者 中村将史さん（花のある暮らし研究所）

§ スケジュール

13:00 オープニング・趣旨説明・イントロダクション

13:15 「コーディネーターについて」ゲスト講師：鈴木まり子氏

15:50 アンケート記入・クロージング

16:00 終了



ゲスト講師に鈴木まり子氏をお迎えして、コーディネーターとしての考え方や振る舞い方など、受講者同士のワークを交え、それぞれで考えながら理解を深める研修を行いました。

会場にはモニター研修生である大石氏の運営する Café OEC を利用させていただき、休憩時には特製のケーキも食べながら、研修初日ということもあって参加者同士の親交も深める回となりました。



プログラム①-2 静岡グリーンラボ 第2回

目的：みどりを活かした取り組みを市民、市役所と共に推進していくためのコーディネーター人材育成を制度化するためのパイロット研修。2回目は静岡市のみどりに関する制度や仕組みの話、あさはた緑地の事例やワークショップ、ゲスト講師（オンライン）によるみどりの多機能性を活かす講座を通してみどりの活用について理解を深める。

日時：9月10日(水) 10:00~15:30 （お昼休憩あり）

場所：あさはた緑地センターハウス会議室（静岡市葵区赤松2-1）

出席者：主催者 静岡市緑地政策課 曾根氏・山崎氏

受託者 （一社）グリーンパークあさはた 木下・太田・村松

アドバイザー 山本由加氏

ゲスト講師 木村智子氏（オンライン参加）

モニター参加者 大石朗紀さん、井上 泉さん、柚木康裕さん
平川嘉乃さん、中村将史さん、藤浪義之さん

§ スケジュール

10:00 集合 センターハウス会議室 アイスブレイク・イントロダクション

10:30 講座（緑地政策課担当）

11:30 あさはた緑地の事例話題提供

12:00 <昼休憩> 各自園内散策

13:00 あさはた緑地の事例のつづき

13:30 みどりの多機能性と活かし方（ゲスト講師：木村智子さん）

15:20 振り返り、アンケート回答

15:30 終了



午前中は静岡市緑地政策課の曾根氏、山崎氏から静岡市における「みどり」についての基礎講座ということで、「静岡市みどりの基本計画」や公共スペースとしての「公園」の使用手続き、ルール、活用事例などを話していただきました。

その後、会議室の座学モードから畳のスペースに移動して、少し一息ついてリラックスした形で公共スペースの活用とコーディネーターのあり方について、あさはた緑地を題材にして木下からお話しさせていただきました。



後半はゲスト講師の木村智子さんからオンラインで様々な公園活用の事例紹介からそれらにおけるコーディネーターの役割、また公園緑地が生物多様性においても重要であるという視点についてもインプットいただきました。



プログラム①-3 静岡グリーンラボ 第3回

目的：みどりを活かした取り組みを市民、市役所と共に推進していくためのコーディネーター人材育成を制度化するためのパイロット研修。3回目は2回目までのインプットを元に生まれてきたアイデアのタネを育てるコーディネーター業務の実践練習と、次年度以降の制度のあり方についての意見交換を行う。

日時：9月17日(水) 10:00~15:30 (お昼休憩あり)

場所：しずおかのひみつ (静岡市葵区駿府町1-2-1 新駿府ビル 1階)

出席者：主催者 静岡市緑地政策課 曾根氏・山崎氏

受託者 (一社)グリーンパークあさはた 木下・太田・村松

アドバイザー兼講師 山本由加氏

モニター参加者 大石朗紀さん、井上 泉さん、柚木康裕さん
平川嘉乃さん、中村将史さん、藤浪義之さん

§ スケジュール

10:00 集合 しずおかのひみつ アイスブレイク・イントロダクション

10:30 ケーススタディ1

12:00 <昼休憩>

13:00 ケーススタディ2

14:40 次年度からの制度について

15:30 終了



第3回はモニター参加者井上さんの運営するしずおかのひみつを会場としてお借りし、前半は過去2回のインプットを振り返りながら、アドバイザーの山本氏に本研修の構成の意図、育成人材の活躍のイメージなどを解説いただきました。後半は2つの公園に関する相談についてディスカッションを行う実践と、最後にモニターとして講座を受けてみて、今後制度化するにあたっての意見交換を皆さんと行いました。



制度化にあたっての意見交換でのコメント

- ・一番最初はコーディネーター研修よりもみどりの基礎研修の方がいい
→1回目の前にプレでオリエンテーションみたいなものがあると心構えができる

- ・2日目の座学がやや詰め込みすぎ
→今回は初日が半日だったので、丸々3日あればもう少し余裕持たせられる
→事前に資料配布があれば多少の詰め込みでもついていける

- ・制度的な解説は動画でもいいかも
→市の職員の生解説だからこそその良さもある
→動画作ったら市のウェブサイト等で常時公開して活用とかも可能

- ・緑地政策課からの話は制度面の話と公園の可能性の話を区切って話した方がいい

- ・あさはた緑地でやるなら少しでも屋外の公園エリアを歩くべき

- ・カフェとおやつは必須

- ・3日目のケーススタディはよかった、できれば現地行ってもっとやりたい

- ・みどりの専門性あるモニターの活躍をもっと引き出したい
→木村さんのインプットを序盤で早めに入れてみどりの活用の話を膨らませたい

- ・もっと静岡市の他の公園についても知る機会を作っていきたい

- ・3回の研修の間隔は1週間おきが前回の内容を忘れなくていい

実施後に参加者に記入いただいたアンケートについてはスキャンデータをそのまま添付資料とします。

4.プログラム②-1 対話の場「竜南雨坪公園のルールづくり会議」

モニター参加者の平川氏が研修のケーススタディでのディスカッションからもヒントを得て、緑地政策課の山崎氏、曾根氏とも協働して竜南小学校及び竜南雨坪公園のステークホルダーに参加を呼びかけて実施された会議。竜南小学校6年生の授業の一環として開催され、グリーンパークあさはたの木下が当日の進行、ファシリテーターを務めました。

§ 実施概要

目的：竜南雨坪公園は地域の子どもから高齢者まで幅広く利用される身近な都市公園である。しかし、近年はボール遊び等の利用を巡って意見が分かれ、公園の使い方に関する課題が生じている。静岡市都市公園条例では細かな利用ルールまでは定められていないため、各公園において自治会や愛護会等が中心となり、個別にルールを設定しているのが現状である。本会議では、実際に公園を多く利用する小学生や地域住民、関係者が一堂に会し、「みんなが気持ちよく使える公園のルール」について話し合い、合意形成を図ることを目的とする。

日時：令和8年2月3日 9:55～11:35

場所：竜南小学校体育館

協力：竜南自治会/竜南小学校/地域住民代表/静岡市緑地政策課

参加：竜南小学校6年生代表/自治会役員/PTA役員/近隣住民代表/緑地政策課職員

スケジュール

9:55 開会挨拶（竜南小校長先生）

10:00 趣旨説明（木下）

10:10 参加者自己紹介

10:15 公園のルールづくりについて（緑地政策課山崎氏）

10:30 事前アンケート結果の共有（協働活動推進員平川氏）

10:40 休み時間

10:50 公園のルールづくり提案・意見交換×3件（6年生）

①排水路の危険性について

②ごみのポイ捨てについて

③ボール遊びについて

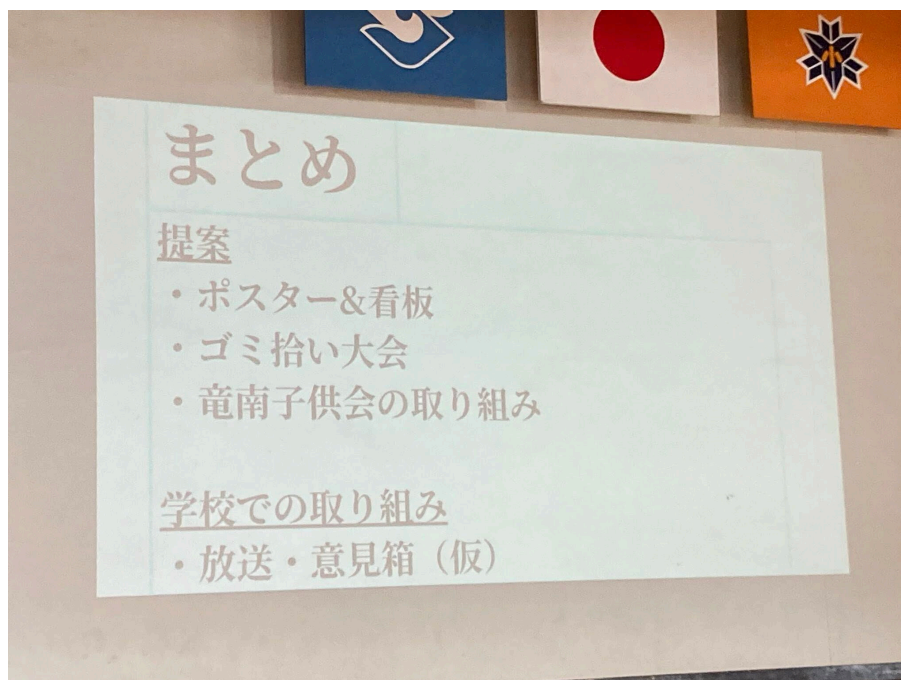
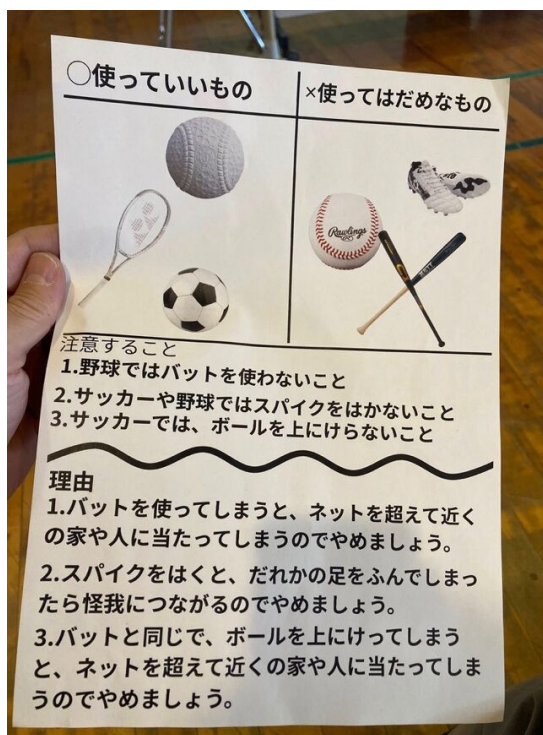
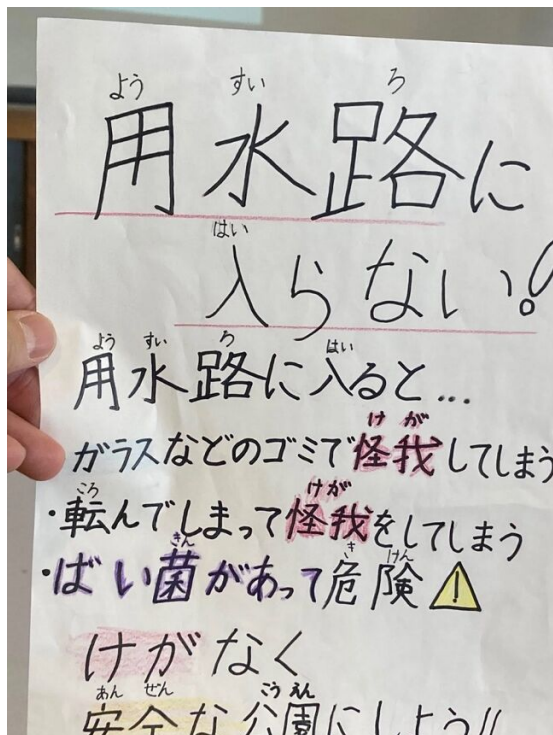
11:30 まとめ

11:35 閉会挨拶

多様なステークホルダーに対しての事前の調整がとても大変だったとお聞きしましたが、そのお陰で当日は参加した大人のメンバー（自治会、民生員、コミュニティスクール、PTA関係者）の方々は大変協力的にご発言くださり、子どもたちのプレゼンテーションに熱心に耳を傾け、足りない視点を補ったり、提案への感謝の言葉を述べたり、率直な意見を述べたりしてくださったことで、学校の授業の一環ではあるもののしっかりと公園のより良いあり方について参加者のみなさんで協議することができました。

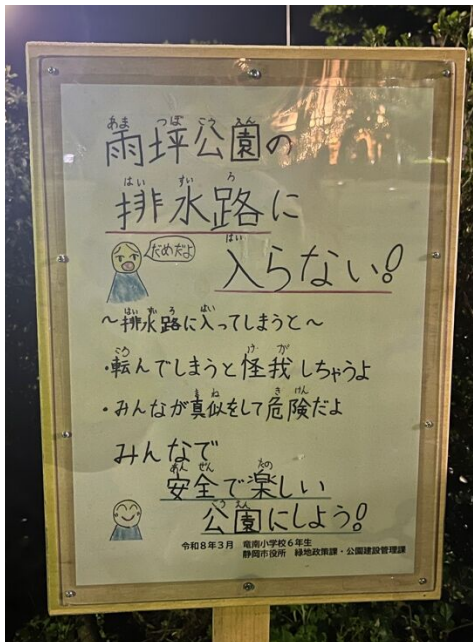


6年生は3人ずつ3チームで3つのテーマについての提案を参加者の皆さんに対して行い、コメントやアドバイスなどをいただきました。



§ 実施の成果

雨坪公園のルールづくり会議の成功はコーディネーターとして平川氏の活躍が大きな要因の一つであり、本事業の価値を裏付けるように、実際に動く小学生を支える立場として各ステークホルダーとの調整に奔走してくださいました。また、コーディネーターの存在価値だけでなく協働の良さも生きた事例であり、緑地政策課が伴走し続けたことで会議で出たアイデアを自治会が確認し、すぐに公園内に反映させることができました。以下の写真は会議からわずか1カ月後に公園内に設置された看板です。提案してくれた6年生が卒業する前に設置が実現できた大きな要因は市役所と一緒に動いてくださっていたことが挙げられます。これは行政が前面に出ると、反対や陳情になりやすい合意形成の場をコーディネーターが仲介することで潤滑油として機能した好事例になりました。



プログラム②-2 対話の場@あさはた緑地 × 2

目的：あさはた緑地の来園者と対話する場を設けることであさはた緑地及び公園の利活用について様々な方の意見を聞かせていただく

【対話の会①】

日時：令和8年2月7日 12:00～13:00

場所：あさはた緑地センターハウス会議室

対象：令和7年度米部参加世帯の方々36名

内容：あさはた緑地が令和7年度から始めた「部活動」事業に絡めて、年間を通じて米づくりを体験する「米部」の最後の活動である「餅つき大会」のタイミングを活かし、お餅を食べながら1年間の活動を振り返るとともに、今後公園にどのように関与して行っていきたいか、どんなことをしてみたいかなどのアイデアを自由に発言してもらいました。



出たコメント

- ・年間プログラムであればもっと参加費をとってもいい
- ・生きものを捕まえたい、できれば園内で育てたい (ex.カルガモ農法、やぎ)
- ・来年も米部に参加したい
- ・他の作物も栽培してみたい
- ・分区分でそれぞれやるのもいいが、部活動としてみんなのできるのがいい
- ・もう少し頻繁にプログラムがあると嬉しい
- ・天候によって日程が変わってしまうので参加予定を立てるのが難しい
→雨天でも危険がない範囲でやれる人はやってもいいのではないかと

【対話の会②】

日時：令和 8 年 2 月 28 日 12:00～14:00

場所：あさはた緑地センターハウス会議室

対象：当日来園された方々に無作為にお声がけし 22 名

内容：自治会主催の遊水さくら祭り当日に合わせて、会議室に畳のスペースを作って、お茶とお菓子を用意し、休憩でセンターハウスに来館したご家族などにお声がけしてお話を聞かせていただきました。



出たコメント

- ・麻機の裏側（子供病院から静鉄方面）にもバスが通っていたら便利。
- ・ママたちが集まれるカフェがあると良い。子連れではなく、ママたちだけが集まりたい。ただ、センターハウスは買ったものを持ち寄って食べれるからとてもいい。
- ・あさはた緑地外でもイベントがあると足を延ばす。
例えば…おじいちゃんやおばあちゃんから昔遊びを教えてください
草花を習う、昔の風習を習う（どんど焼きのミカンの理由とか）、ハイキング
- ・炊事棟がその日のうちに使えると良い
ヨモギ咲いてた！その場で摘んでクッキング！
- ・子どもが行っても危なくない自然状態の場所があれば教えてほしい
（麻機の山のほうとか、遊水地内とか）
- ・どんなイベントをやるにしても駐車場はあってほしい
- ・麻機地域が好き。ときに大きな不満はない。静かで良い所。

5.プログラム③事業成果報告会

継続含め 2 年間の事業の締めくくりとして、対外的な報告会を企画させていただき、同様に令和 6 年度から 2 年間静岡市協働パイロット事業を実施された NPO 法人 BASS Plus さんと、同じく NPO 法人 ESUNE さんにもお声がけし、合同報告会として開催しました。

日時：令和 8 年 3 月 16 日 13:30～16:00

場所：静岡市コ・クリエーションスペース（コクリ）

対象：協働パイロット事業受託者、担当課、関心のある方々

参加：20 名

内容：3 団体から 2 年間の活動の概要、担当課との連携、次年度以降の事業の展望などをインプットいただき、その後対話の時間として参加者全員参加で「協働」をテーマにお話しました。

§ スケジュール

- 13:30 オープニング、司会挨拶、趣旨説明
パイロット事業説明（市民自治推進課前川さん）
- 13:40 事業報告① グリーンパークあさはた木下
「静岡グリーンラボ～みどりを活かす人材の活躍の仕組みづくり～」
- 14:05 事業報告② BASS plus 知久さん
「放任竹林を活用したレッパーくんのもぐもぐサポートプロジェクト」
- 14:30 事業報告③ ESUNE 天野さん
「大谷小鹿における協創プラットフォーム構築に向けた
コミュニティリーダー発掘・育成事業」
- 14:55 休憩
- 15:00 対話の時間
- 15:50 クロージング 記念撮影



令和7年度静岡市協働パイロット事業成果報告会

Collaborate 2025

静岡市との協働で豊かな社会へ

令和8年
3月16日 月

時間 13:30-16:00

場所 静岡市コ・クリエーションスペース
葵区御幸町3-21 ペガサート7階

定員 30人

主催 静岡市市民自治推進課 / 緑地政策課

運営 一般社団法人グリーンパークあさはた

申込 右のQRコードを読み取り
申込フォームから
お申し込み下さい。



プログラム

- 報告会趣旨説明
- 静岡市協働パイロット事業について
- 事業報告
【一般社団法人グリーンパークあさはた】
【NPO法人BASS plus】
【NPO法人ESUNE】

● 対話の時間
報告者3名に加えて、会場に集まったみなさん
で協働をキーワードに静岡のこれからの話
を話しましょう。

司会

太田真帆さん
一般社団法人グリーンパークあさはた
あさはた緑地スタッフ



静岡グリーンラボ
～みどりを活かす人材の
活躍の仕組みづくり～



あさはた緑地センター長 木下聡さん

放任竹林を活用した
レPPERくんの
もぐもぐサポートプロジェクト



NPO法人BASS plus代表 知久昌樹さん

大谷・小鹿における
協創プラットフォーム構築に向けた
コミュニティリーダー発掘・育成事業



NPO法人ESUNE代表 天野浩史さん

6.事業の成果

・研修プログラム

9月に3回の研修を試し、実践経験が豊かなモニター参加者の方々に受講いただき、フィードバックしてもらえたことで、研修の内容、回数や間隔、一回ごとのボリューム、順番、会場設定など様々な観点から貴重な検討材料を得ることができました。

特に「みどり」の研修と「コーディネーター」の研修はどちらを先に実施するかで全体の方向性に影響するため、重要な要素だとわかりましたし、市の職員からのインプットがあることで「協働」の重要性や、「公共」について考える視点、その後もコーディネーターとして活躍する際のつながりづくりなど様々な面でメリットがあることも確認されました。

今回の3回の研修内容を下敷きとしつつ、また次年度以降も構築される制度を踏まえ、実施の規模や時期などの条件に併せて柔軟に研修計画を策定していく土台ができました。



・モニター研修生

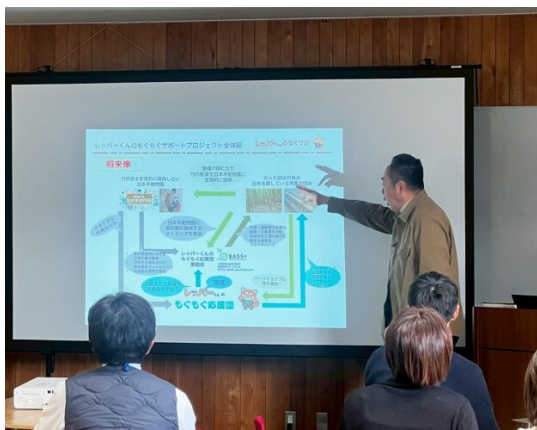
今回は受託者、担当課、アドバイザーがモニターとして適任と考える実践経験のある方々でしたが、これまで触れてこられなかった「みどり」や「公園」、「ファシリテーション」等のインプットの経て、早速それぞれに自身の活動などにも活かしていただいています。

例えば、平川氏は自身の担当する竜南小の児童が近隣の竜南雨坪公園でのキャッチボールを他の利用者から咎められ、公園でボール遊びができなくなってしまったという案件を研修3回目のケーススタディでも取り上げてくださり、研修内で地域の合意形成について意見交換できたことをきっかけに、プログラム②-1 対話の場「竜南雨坪公園のルールづくり会議」につながりました。公園という公共スペースが、想定以上に多くのステークホルダーの様々な思いが交錯する場であることが、改めて実感されたと同時に、緑地政策課が主体的に伴走されたことで、協働が成果を生み出す大きな要因の一つであることも確認され、大変貴重な事例となりました。ぜひ来年度以降の研修では取り上げてその後についても追っていきたいと思います。

そのほか、同じくケーススタディで取り上げた松井町公園も大石氏が積極的に活用策を検討されていますし、柚木氏はすでに運営されている船越堤公園で様々な方々の活用を促進されています。

・成果報告会

本事業や、協働パイロット事業の成果や価値、可能性をもっと多くの方々に知ってもらいたいという思いから、単独ではなく他 2 事業の受託団体、担当課にもお声がけして報告会を開催することができ、メディア取材こそなかったものの、過去の受託団体や次年度の申請検討団体、各事業に関わられた方々など、幅広い方々にご参加いただけました。また、ご一緒いただいた 2 団体の活動も「みどり」や「公園」がキーワードとして関わってくる事業であり、今後の連携も検討できるきっかけ作りとしても有意義な会となりました。



NPO 法人 BASS Plus 代表知久さん



NPO 法人 ESUNE 代表天野さん

